上天草市「ゼロカーボンシティ」宣言

本市は、雲仙天草国立公園に位置し、九州自然歩道（観海アルプス）からの眺望など、温暖な気候や豊かな自然に恵まれています。この素晴らしい自然環境を守り、良好な環境の保全を次世代に継承していかなければなりません。しかし、近年の我が国の状況は、台風の巨大化、集中豪雨、猛暑等がもたらす自然災害が頻発しており、それらは、人類の活動により排出される温室効果ガスの影響によるものと言われていることから、まさに気候危機と言うべき状況であり、その対策は不可欠なものとなっています。

２０１５年に合意されたパリ協定では「産業革命からの平均気温上昇の幅を２℃未満とし、１．５℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、２０１８年に公表されたＩＰＣＣ（国連の気候に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標を達成するには「２０５０年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。我が国においても、令和３年５月に「地球温暖化対策の推進に関する一部を改正する法律」が国会で可決され、「２０５０年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロ」とする取り組みを推進することになりました。

このような中、上天草市においても、受け継がれてきたふるさと上天草の自然と文化を未来に引き継ぎ、本市が目指すべき環境像として掲げる「人と海がふれあうまち上天草～美しい海と環境にやさしいまちを未来の子供たちへ～」を実現していくため、市民・事業者・市が協働して、２０５０年までに本市の二酸化炭素の排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」に挑戦することをここに宣言します。

令和４年６月２３日

上天草市長　堀江隆臣